



# 阿武郡報

第四十三號

大正九年十二月十九日第三種郵便物認可 (每月一回二十五日發行)

## 次 目

□ 表 彰	□ 庶 務	□ 兵 事	□ 産 業
一、町村長集會……………六	一、十二月及一月町村稅納稅狀況……………二	一、海軍志願兵檢査……………三	一、稻作保證栽培……………四
			一、水産物即賣會品評成績……………五



二月十一日紀元節に當り中川本縣知事より表彰せられたる本郡内教育效績者及優良青年團の表彰文並事蹟の概要左の如し

### 表 彰

#### ▼表彰文▲

阿武郡椿西尋常高等小學校  
訓導兼校長 大 和 春 三

大正九年二月廿四日印刷  
大正九年二月廿五日發行

發行所 山口縣阿武郡役所

山口縣阿武郡萩町  
第二千二百六番屋敷

印刷所 萩 響 海 館



阿武郡椿東尋常高等小學校  
訓導 金子 虎 吉

多年小學教育ニ從事シ恪勤勵精其ノ成績顯著ナルモ  
ノアリ其ノ賞トシテ金五拾圓ヲ授與ス  
大正九年二月十一日

山口縣知事從四位勳三等 中川 望

阿武郡明木村青年團

團長以下幹部協力一致指導其ノ宜シキヲ得團員ノ勵  
精ト相俟テ成績見ルヘキモノアリ將來益自覺奮勵  
其ノ實績ヲ修ムルコトニ努ムヘシ茲ニ金參拾圓ヲ授  
與ス

大正九年二月十一日

山口縣知事從四位勳三等 中川 望

▼事蹟概要▲

阿武郡椿西尋常高等小學校

訓導兼校長 大和 春 三

明治二十九年本縣師範學校卒業爾來阿武郡開蒙小學  
校吉部小學校ヲ經テ現任校長ニ及フ此ノ間二十有五年  
職務ニ忠實ニシテ到ル處施設ノ成績見ルヘキモノ多

シ其ノ成績ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

開蒙小學校在職ハ十有六年ノ久シキニ及ヒタルガ此  
ノ間單級教授ニ就キテハ獨特ノ研究工夫ヲ試ミテ各  
種ノ器械教授等ヲ考案シ教務ノ徹底ト學習態度ノ養  
成ニ努メ經濟思想ノ涵養學用品ノ節約ヲ圖ル爲廢物  
ノ利用法ニ工夫ヲ凝ラシ部落講話會學藝會等ヲ催シ  
テ父兄ノ教育思想ノ喚起ニ努メタリ當時同校ハ縣下  
ニ於ケル三模範小學校ノ一ニ數ヘラレ施設ノ成績優  
良ナルモノアリテ明治三十九年文部省ヨリ其ノ效勞  
ヲ賞セラレタリ

吉部小學校長ニ轉スルヤ學校家庭ノ連絡ヲ圖リ父兄  
ノ教育思想ヲ喚起スルコトニ努メテ從來郡内各町村  
中最下位ニ在リシ就學出席ノ成績ヲ著シク向上セシ  
メ吉部村教育ト題スル冊子ヲ發刊シテ學校ノ内容ヲ  
詳細ニ紹介シ同校ノ面目ヲ一新セリ圖書館ノ經營青  
年團ノ指導報德會ノ設立等社會教育ニ就テモ畫策經  
營怠リナク其ノ成績頗ル良好ナルモノアリテ父兄村  
民ノ信賴ヲ博セリ

現任校長ニ於テハ家庭トノ連絡ヲ一層周到ナラシムヘ  
ク各種ノ施設ヲ講シテ就學出席ノ成績ヲ良好ナラシ  
メタルハ勿論、校訓ヲ特ニ五指一拳ノ利用ニ結合セ  
ル所頗ル儉素而モ公共慈善ノ精神ニ富ミテ慈善事業  
ニ喜捨スルヲ樂ミトシ又佛教ニ歸依ス國民道德ノ頹  
廢ヲ慨シ本務ノ傍明治十八年二月本派本願寺萩別院  
内ニ巴城佛教少年會ヲ創立シ、勤行、法話、訓話、  
御伽噺、唱歌、遊戲ノ六科目ヲ課シ自ラ身ヲ捧ケテ  
少年教養ノ任ニ膺リ炎暑祁寒ヲ忘レテ指導ニ任シ詩  
々教ヘテ倦マサルコト三十有餘年毎會ノ出席八百名  
ヲ上下ス大正四年本山ヨリ優勝旗ヲ下シテ其ノ成績  
ヲ旌表セリ尙前記佛教少年會ノ後援トシテ萩佛教青  
年會ヲ設ケ毎月一回講座ヲ開キテ修養ヲ説キ青年ノ  
指導ニ任セリ

明治十八年六月普通學科復習ノ目的ヲ以テ「温知學  
舍」ト稱スル夜學會ヲ設ケ爾來繼續スルコト三十有  
三年、學童及ヒ卒業生等其ノ德風ヲ慕ウテ來リ學フ  
コト慈母ニ親ムカ如ク師弟ノ情誼洵ニ掬スヘキモノ  
アリ

阿武郡明木村青年團

一、沿革及組織ノ大要

大正六年十月二十八日明木青年會評議會ニ於テ從來ノ  
青年會ヲ解散スルコトニ決シ本縣訓令ニ基キテ之ヲ組

シメテ學習態度ノ養成基礎的訓練ニ意ヲ用ヒ其ノ成  
績良好ナルモノアリ獨特ノ工夫考案ヲ以テ各種ノ教  
具教辨類ヲ製作シテ教育能率ノ増進ヲ圖ルト共ニ教  
育費ノ經濟ヲ期シ學用品ノ節約廢物ノ利用ニ努メテ  
經濟思想ノ涵養ニ資スル等周到ナル計畫ノ下ニ著々  
施設ノ改善ヲ圖リ社會教育ニ力ヲ注キテ青年團ノ成  
績亦頗ル良好ナルモノアリ圖書館ニ於テハ巡回書囊  
ノ利用ハ勿論待合文庫ヲ創設シテ讀書趣味ノ涵養ニ  
努ムル等其ノ成績顯著ナルモノアリ

阿武郡椿東尋常高等小學校

訓導 金子 虎 吉

明治二十五年本縣小學校教員豫備科講習所ニ於テ規  
定ノ學科ヲ修メ尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ  
得同二十九年山口縣尋常師範學校講習科ヲ卒業シテ  
尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ得タリ明治十五年  
ヨリ小學校ノ教育ニ從事シ阿武郡濱崎、北斗、明倫  
佐々並、越ヶ濱等ノ各小學校ヲ歴任シテ現任校長ニ及  
フ此ノ間實ニ三十有五年ニシテ現任校長勤績二十餘年  
ノ久シキニ亘リ教授訓練ノ成績良好ナリ  
資性温厚ニシテ篤實、特ニ孝養ノ志篤クシテ自ラ守



織シ全年十一月三日發團式ヲ舉ケ現今ニ至レリ  
團長ハ明木尋常高等小學校長之ニ當リ副團長ハ同村長  
及小學校次席訓導ヲ選任シ幹事ハ小學校男教員全部之  
ニ當レリ名望家瀧口吉良氏顧問トシテカヲ致シ指導獎  
勵ニ怠ラス

同村ハ地積廣大交通又不便ナルヲ以テ村内二十一ノ支  
部ヲ設ケ其ノ下ニ組ヲ置ク支部長ハ壯年團ノ支部長ヨ  
リ兼任シ組長ハ團員ノ互選トス在郷軍人分會長村會議  
員區長有志者等協力一致團員ノ指導獎勵ニ努メ居レリ  
二、三大綱目實施狀況

(一) 勅語奉讀式ノ狀況

毎月三十日教育勅語下賜記念日未明全團員ヲ村公會堂  
ニ集合セシメテ舉行ス 勅語奉讀後團長ハ聖旨ニ基キ  
テ訓話シ意義アル生活ヲ爲スヘク善行ニ勵ムヘキヲ諭  
シ參列者(村長顧問軍人分會長等)ヨリ講話スルコト  
モアリ式後劍道ノ試合ヲナスヲ常例トス  
同青年團ニ於テハ當日ヲ以テ所謂模範日トシ美事善行  
ヲ各自實行シテ道德上ノ修養ト工夫トヲ積マシムルコ  
トニ努メツ、アリ  
模範日日誌ハ團員就寢前ニ記述スルコト、ナシ其ノ項  
目左ノ如シ

- (1) 今日ハドンナ善イコトヲナシタカ
- (2) 改メナケレハナラヌコトハ何々カ
- (3) 協同心ハトウテアツタカ
- (4) 服従心ハトウテアツタカ
- (5) 規律ハトウテアツタカ
- (6) トンナ悪イコトヲ聞イタカ

其ノ出席歩合ハ大正七年度ニ於テ七七、三八ナリシカ  
大正八年度ニ入り八六、三〇ニ上レリ  
本村ハ地域廣ク美禰郡ニ境スル矢代部落ノ如キハ中央  
ノ公會堂所在地ヨリ二里半モ距リ亦佐々並村ニ接セル  
所ノ切部落ノ如キハ中間ニ「一升谷」ト稱スル一里半  
ノ峻坂難路アリテ交通不便ナルニ拘ハラヌ前記ノ如キ  
成績ヲ示セリ

(二) 補習教育ノ狀況

團員ノ全部ハ補習學校生徒トシテ毎年十一月ヨリ翌年  
四月マテ六ヶ月間同村小學校附設ノ實業補習學校ニ於  
ケル朝學ニ出席ス朝學ヲ行フ理由ハ夜更ヲ戒メテ晨起  
ヲ獎勵スル趣旨ニテ三時間電燈ノ下ニ學習ス學科目ハ  
修身、國語、算術、農業、體操ノ五科目ニシテ教授者ニ於  
テ土地ニ適切ナル教材ヲ選擇シ實際的ノ指導ヲ爲スコ  
トニ努メツ、アリ出席狀況左ノ如シ

大正七年度

七五、八五

大正八年度

八四、四〇

尙團員ニシテ壯丁檢査ノ際施行ノ學力試驗成績ハ普通  
郡内ニ於ケル第二、三位ヲ占メツ、アリ

(三) 體育上ノ施設狀況

體育例會ハ毎年五月ヨリ十月マテ六ヶ月間ハ勅語奉讀  
式後引續キ之ヲ行ヒ十一月ヨリ翌年四月マテノ六ヶ月  
間ハ毎週土曜日夜間公會堂ニ於テ劍道ノ練習ヲ行ヒ大  
正七年度出席歩合八一、四一ノ出席ナリシカ大正八年  
度ニ於テ八五、四七ニ上レリ

寒稽古ハ大正七年度ヨリ毎年二週間之ヲ實施シ大正七  
年度ハ八八、六七大正八年度ハ九一、九九ノ出席成績ヲ  
收メ團員頗ル熱心ニ修業セリ

劍道講習會ハ大正七年度ニ於テ一週間大正八年度ニ於  
テ一週間縣武道教師ヲ講師トシテ之ヲ開催シ其ノ狀況  
頗ル良好ニシテ技術ノ進歩著シキモノアリ

練武會ハ毎年一週間乃至二週間ノ期間ヲ以テ開催シ郡  
設體育會在郷軍人阿武郡聯合會南部體育會縣教育會主  
催體育大會ニ出演シ何レモ優良ノ成績ヲ得タリ

三、公共事業ノ幫助

(イ) 共同勤務

壯年團軍人分會ト聯合シテ毎年村經營造林ノ中刈  
ヲ行ヒ各支部團員ハ壯年團經營ノ記念造林ノ手入  
ヲナシ近ク公會堂附近ニ設置セル忠魂碑ノ敷地整  
理ノ爲メニ多大ノ勞力援助ヲナセリ

(ロ) 蔬菜品評會ノ開設

村農會壯年團軍人分會ト聯合シテ每年秋季菜果品  
評會ヲ開催シ農事ノ改善ニ努ム

(ハ) 其他

學齡兒童ノ出席督勵、神社寺院ノ祭典供養等ニ於  
ケル援助、夜警、害虫ノ驅除等公共の事業ノ幫助  
ニ活動シツ、アリ

四、團員ノ修養風儀其ノ他ニ就キテ

規約貯金ノ實施

大正八年二月ヨリ團員規約貯金ヲ實行シ一人毎月金拾  
錢宛チ貯蓄シ本年一月末現在金九拾九圓六拾貳錢貳厘  
ヲ有ス

支部團員集會

支部團員ハ每會一回各支部ニ於テ軍人分會員壯年團員  
ト聯合シテ集會ヲ催シ修養上ノ談話ヲナシ知見ヲ啓ク  
コトニ努ム風儀ハ頗ル良好ニシテ犯罪者ヲ出シタルガ  
如キコトナク眞面目ニ家業ニ勵ミツ、アリ



庶務

町村長集會

二月十四日郡内町村長集會を開催せり劈頭郡長より三月二十五日より開會すべき民力共進會の用務を帯び上京中の状況及近時都會に勃興せる改造氣分に就ての所感を述べて多大の注意を喚起せり及當日指示したる事項其の他左の如し

指示事項

- 一、大正九年度郡事業施設に關する件  
本年は恰も平和克復後第一年に中り世界的進歩の勢に鑑み自治教育産業各方面の施設を積極的に經營し各位の盡力と相俟ちて民力の涵養地方行政の徹底完璧を期し以て大に民福の増進に資せんとす茲に本年通常郡會の議決協賛を経たる事業の梗概を録し各位の参考に資す
- 一、郡吏員の派遣  
建築土木吏員は前年度と同様町村の建築土木工事の監督設計の事に當らしめ其の旅費は派遣希望町

村の負擔たること昨年に同じ  
二、衛生事業の施設

衛生展覽會は費金の少額なるに反し比較的有効にして徹底的なるを認め昨年と殆んど同様の額を計上し郡内數ヶ所に之れを開催せんとす然れ共町村と提携して之れを開催せば其の箇所度數を増加することを得公衆衛生思想の喚起普及に多大の効果あることを信す故に各位に於て開催希望の向は一町村約貳拾圓を豫算に計上し二月中に申出でありたし

- 三、地方改良事業の施設  
萩町に開設せる萩看護婦講習所は昨年に於て其の第一回卒業生十五名を出し成績良好就中六名正看護婦試験に及第し其の第一二位を占むるものあるに至り本年も亦引續き開設せるに依り全所費に對し金五拾圓を増額し金百參拾圓を補助して事業を助成すること、せり入所生徒ある町村に於ては相當食費の補助を爲し傳染病發生の際に於て雇人得べく契約し置かるゝ等利用の途を講せられたし
- 三、地方改良事業の施設  
(1) 優良團體及功勞者の表彰  
既往三ヶ年に互り優良團體及功勞者の選奨表彰

(4) 視察

昨年度に於ては東京に於て開催の中央報徳會主催自治講習會へ篤志者を出席せしめたりしが本年は町村吏員又は地方有志者の内二名を簡拔囑托して右等の講習會に出席聴講せしめんとす

四、郡報の發行

大正六年十一月以後月刊に改め内容の改善をも行ひ來りしが本年亦一層深甚なる注意を拂ひ各種有益なる材料を蒐め地方開發上の好資料たらしめんとす

五、神職會及佛教團補助

昨年度より神職會及佛教團に對し地方改良及感化救濟事業の徹底實行を期せしむる爲相當の補助を與へ助成に努めたりしが本年度は其の補助金額を増加し神職會に金百圓佛教團に金八拾圓を補助せんとす依て該會の主なる事業たる講演會の開催に就ては可及的便宜助力を與へられ就中佛教團支部の行ふべき事業の一たる免囚保護に對しては本年も町村費より相當補助せられたし

六、教育事業の施設

(1) 實科高等女學校の經營

を行ひ年々其の數を増加せるは洵に欣ぶべき事にして本年も相當其の費額を計上し彰旌を行ひ以て益々行政の伸展を期せんとす

(2) 青壯年團幹部養成講習會開設

青壯年團幹部養成講習會は前年通開設の筈なりしが更に本年よりは一段徹底的ならしむる爲講師小尾晴敏氏を各地に出張巡回せしめ昨年講習を受けたる生徒に就き直接指導を與へ又一面數ヶ村の青壯年團員を集めて直接指導講演の事を計畫し以て益々中心人物の養成助長に資せんとす故に本年も各町村より相當の人物を選定し之に對し少くも一人七圓宛の講習費補給の途を講せられたし

(3) 區長懇談會開設

區長及區長代理者の懇談會は昨年に於て其の第一回を試みたりしが孰れも各自意思の疎通を得豫想外の効果を齎らし町村開發の好機關たることを悟れり依て本年も各町村毎に之を開設し親しく懇談を交へ町村行政の改善刷新に資せしめんとす各位克く此の意味に於て一段の盡力を望む



丁卯年2月

實科高等女學校經費總額は壹萬參千八百貳拾九圓にして校長始め各職員共に其の内容改善に努め其の設備に至りても昨年七月久原清子氏の特志に依り六千圓の寄贈ありしを以て圖書器械の設備を充實するを得ると共に理化教室の改造に着手し目下工事中にあると共に普通教室増築につきても多年の懸案なりしが愈々基金を流用し三教室増築のことに決定せり而して昨年夏季生徒に水泳を課せしに大に効果ありしを認め大正九年度も第二學期末に於て水泳講習會を開催すべく講師手當金を加入せり各位は本校内容につき十分各父兄に周知せしめられ入學生徒志望者の増加する様勸誘あらんことを望む

因に去る一月開會の通常郡會に於て本校を本科に改め實科を併置すべく建議せられたり

萩圖書館の經營

郡立萩圖書館の經費總額は壹千八百四拾圓にして内圖書購入費に於て昨年度に比し貳百圓を増加せり之れ近時圖書價格の昂騰せし結果なりしと雖も亦一面圖書購入を潤澤にせんとするにあれば充分利用あらんことを望む

(2)

- (3) 小學校兒童及實業補習學校生徒獎勵費  
大正九年度に於ても前年同様あり
- (4) 小學校兒童聯合體育會  
大正九年度も前年同様開會すべきに依り右に關する諸施設費相當計上せられたし
- (5) 學事視察  
大正九年度も前年同様縣下小學校教員協議會へ八名派遣の外郡内小學校長訓導中より拾五名を選び静岡、東京、長野の三縣下に於ける教育全般につき調査せしむることとし一人金貳拾圓宛を補給することとし、せると共に別に女教員拾貳名を選び福岡縣下に於ける教授管理訓練方面に於ける事項につき調査研究せしむる豫定なれば町村よりも相當旅費の補給を望む
- (6) 教育調査委員會其他  
教育調査委員會の開催並に小學校兒童學力調査壯丁學力調査等の施設は前年同様繼續す
- (7) 教育會補助  
郡教育會補助は昨年に比し五拾圓を増加せり是れ大正九年度も前年同様大島廣島高等師範學校教授を招聘し理科講習會を開催し理科教授の革

- (8) 實業補習學校專任教員獎勵費  
各町村に於ける實業補習學校專任教員を設置せられし場合は其俸給の二分の一を郡費を以て補助することとし經費千貳百圓を計上せり依て各位は補習教育の將來に鑑み專任教員を設置せられんことを望む
- (9) 師範學校生徒獎勵費  
師範學校入學生徒を獎勵する爲め成績優良にして學資乏しきものに對し學資金一人月額男子は五圓宛五人分女子は四圓宛一人分を計上せるを以て多數應募者を得る様援助あらんことを望む
- (10) 實業補習學校教員講習生獎勵費  
大正九年度に於て縣は標記講習會を開設し六ヶ月を一期とし終了の都合にて大正九年度に於て二回開會する事となり依て郡に於ては右講習生に對し學資金月額拾圓づゝ六人分を計上せり

七、勸業の施設

- (1) 技術員増置  
本郡耕地整理林業及水産事業の進展を圖る爲各一名の技術員を増置し以て一層周密なる指導に膺らしむ
- (2) 壘表製造獎勵  
前年の通り模範部落の指定及之に對する蘭苗無代交付織機購入運賃の補助製造傳習開催をなし又從來の指定部落に對し巡回指導をなす
- (3) 製炭傳習  
一ヶ所二十一日間とし二ヶ所に開設す
- (4) 製茶傳習  
教師を雇入れ福川村字平蔵に開設す
- (5) 品評會獎勵  
前年度通町村若は町村農會聯合にて物産品評會を開催する場合は申請により賞状を授與す
- (6) 耕地整理獎勵  
指定事務員の派遣は前年通なるも獎勵金は一日七拾錢なりしを壹圓貳拾錢とせるを以て組合よりは其倍額即ち貳圓四拾錢を支拂はれたし
- (7) 養蠶組合獎勵



- (8) 養蠶教師雇入獎勵費を廢し新に養蠶組合獎勵費を設く獎勵金は一町村以上の區域に依り設置したる組合へ交付し其標準は郡長指定教師給の三分の二を標準とす而して教師給は春蠶平均八拾五圓夏秋蠶平均四拾五圓の見込あり
- (イ) 桑園設置獎勵  
郡長の指定せる部落にして桑園一町歩以上の新植又は改植を爲したるものに對し一部落百圓を交付す
- (ロ) 郡長の指定せる蠶業の幼稚なる町村内新養蠶家にして一戸五畝歩以上の桑園を設置したるものに對し五圓を交付す
- (9) 米麥作獎勵  
米麥各郡内十ヶ所に一ヶ所約一反歩の多收作模範田を設置し郡の指示により栽培せしめ擔當者に對し米麥共に拾圓の手當を支給する外豫め郡設計により保證したる出來高に比し收量の不足を生したるときは其不足高を時價を以て補償す
- (10) 竹林造成獎勵  
竹林の改良普及を圖る爲左の標準により獎勵費を交付するものにして本獎勵金は大正八年度より交付す

- (イ) 整理 一團地五畝歩以上とし一反歩に付十圓
- (ロ) 培養 一團地一畝歩以上とし一反歩當四十圓
- (ハ) 更新 一團地一畝歩以上とし一反歩當四十圓
- (ニ) 新植 一團地五畝歩以上とし一反歩當三十圓
- (11) 山葵栽培獎勵  
一人五坪以上の山葵田を設置栽培せるものに對し一坪に付五拾錢を交付することとし大正八年度より交付す
- (12) 勸業技術員設置獎勵  
町村若は町村農會に於て技術員を設置せるものに對し一町村八拾圓を交付す而して從來交付せられたる縣農會の町村農會技術員設置獎勵は廢止せらるゝ等なり
- (13) 畜産共進會出品獎勵  
本年秋季開催の山口縣馬匹共進會へ馬匹三頭を出品することとし一頭平均二十五圓を交付す

(14) 講習及傳習生獎勵

左の標準に依り獎勵金を交付す

區分	人員	講習又ハ傳習期間	交付金額
農事試驗場甲種講習生	四	一ヶ年	一ヶ月七圓
茶業傳習所傳習生	一	四十日	一日二十五錢
工業試驗場木工傳習生	一	一ヶ年	一ヶ月七圓
全上 竹細工傳習生	二	三ヶ月	一ヶ月七圓
全上 水産試驗場機關科講習生	一〇	一ヶ月	一ヶ月七圓
全上 製造科講習生	五	五十日	一期間十二圓
全上 漁撈科講習生	二	三ヶ月	一ヶ月七圓

- (15) 郡農會補助  
補助金千參百圓を交付す内金七百圓は經常費に對する補助六百圓は繭市場に對する補助にして萩繭市場の擴張及兩繭市場の設備を爲さしむ
- (16) 畜産組合補助  
補助金五百圓を交付し種牡牛設置獎勵の交付及佐々並定期家畜市場増築を爲さしむ
- (17) 漁業組合聯合會補助  
補助金四百圓を交付し餌料運搬試驗煮干鱈竈改良講習講話等の事業を爲さしむ

▼注意事項▲

- 一、國勢調査費交付金に關する件
- 二、社寺私有林造林獎勵に關する件
- 三、樹苗養成獎勵に關する件
- 四、米麥作多收獎勵に關する件
- 五、在營軍人休暇に關する件
- 六、戰病死者葬儀に關する件
- 七、徴兵検査に關する件

□十一月及一月町村稅納稅狀況

▼十一月納稅狀況

一、戶數割附加稅  
本月に於て戶數割附加稅を徵收せるは椿郷東分、椿、三見、佐々並、川上、嘉年、奈古、宇田郷、六島の九ヶ村にして何れも村當局の指導獎勵其の宜しさを待一人の滞納者なく全部完納を見るに至れり

▼一月納稅狀況

一、戶數割附加稅  
本月納期に係はる戶數割附加稅を徵收せるは萩町のみにして三十六人の滞納者ありしも之を前期即ち大正八年六月納期の滞納者五十六人に對し二十八人前々期即ち



大正七年十二月納期の滞納者百十一人に比して七十五人を減少せるは著しき進歩といふべく殊に今期滞納者三十六人は全部所在不明のものに屬し現住者にして一人の滞納者なきに至りたる如きは大に町當局の努力を多とする所なり

一、所得稅附加稅

町村名	滞納		因由別人員	
	貧困	怠慢	計	人員
川上	1	1	2	1
計	1	1	2	1

一、鑛業稅附加稅

村名	滞納		因由別人員	
	所在不明	怠慢	計	人員
川上	1	1	2	1
生雲	1	1	2	1
高侯	1	1	2	1
奈古	1	1	2	1
須佐	1	1	2	1
彌富	1	1	2	1
計	6	6	12	6

小川	1
田崎	5
計	6

◎兵事

□海軍志願兵検査

本年度徵募の海軍志願兵検査は二月十二、十三日の兩日阿武郡會議事堂に於て同十五日地福小學校に於て施行せらる志願者總數は十二名なりしが當日疾病其他の事故に依り不參者九名ありて受檢せし者七十三名なり之を昨年度に比較せば志願人員に於て減少せるも体格學術其の成績優良にして合格歩合に於て縣下第二位を占めたるは各町村當路者盡瘁の結果なりとす左に其の成績を掲記して參考に供す因に徵募官外屬員の氏名左の如し

- 徵募官 海軍少佐 長井實養
- 徵募軍醫官 海軍々醫少佐 山本城夫
- 屬員 海軍一等筆記 菅景隼
- 全 一等看護手 俵藤市

全 全 全 全  
全 二等看護手 小野歌吉  
全 一等看護 澤田喜三郎

大正九年阿武郡各町村別海軍志願兵検査成績表

町村名	受檢者數		受檢者ニ對スル合格者平均得點
	A	B	
萩	4	2	75.0
椿郷東分	3	1	66.6
山田	3	1	100.0
三見	3	1	100.0
明木	6	4	80.0
佐々並	5	4	80.0
川上	2	2	100.0
篠生	2	2	100.0
生雲	2	2	100.0
地福	2	2	73.0
徳佐	2	2	84.0
嘉年	1	1	99.0
高侯	1	1	83.0
吉部	1	1	76.0
福川	1	1	84.0
計	42	23	84.0

大正九年山口縣各郡市別海軍志願兵検査成績比較表

郡市別	受檢者數		受檢者ニ對スル合格者平均得點
	A	B	
玖珂郡	157	82	64.3
大島郡	16	11	76.2
熊毛郡	40	26	70.0
都濃郡	55	42	76.4
佐波郡	37	24	64.9

郡市別	受檢者數		受檢者ニ對スル合格者平均得點
	A	B	
紫井	2	1	100.0
大井	2	1	100.0
奈古	2	1	50.0
宇田郷	2	1	100.0
福賀	2	1	80.0
須佐	6	5	83.3
彌富	2	1	83.3
小川	2	1	50.0
田崎	2	1	83.3
六島	2	1	100.0
見島	2	1	76.1
合計	37	23	83.6



吉敷郡	五	二七	九	三六	八七、〇
美禰郡	二六	一五	三九	二六	八四、一
厚狹郡	三九	一九	八三	六九、二	七九、二
下關市	一〇	六	二	八〇、〇	九三、四
豊浦郡	五〇	二六	八	六八、〇	八七、三
大津郡	二	三	四	七六、二	八五、二
阿武郡	七三	四	一六	七八、一	八三、八
合計	五〇	三九	八五	五〇四	八三、九

◎産業

□稻作保証栽培

阿武郡にては現代の稻反當收量一石六斗九升三合をして近き將來に於て五割の大増加即ち二石五斗に達せしむべく稻作増收の手段として郡内十ヶ所に稻品種試験の施行各部落の採種組合の活動、稻作増收法の印刷物の配布、講話、篤農家の指導、共進會に際し稻作増收館の開設、各町村又は各町村農會に於て一町村を區域とする稻作多收品評會の施行等に努め左の目的の貫徹に盡力中なるが

嘗て他に類例のなき本郡を以て嚆矢とする稻作増收保証栽培を行ふこととせり  
保証栽培は郡内十ヶ所を選び一ヶ所一反歩にして篤農家に委託し郡技術員其の土地に向て適合せるの稻作増收の設計をなし其の改善法をして遺憾なく實行せしめ稻作増收の活模範を示し徹底せるの指導をなすべし其の設計方は本報末尾参考資料として發表せる如く全郡當業者をして直ちに實行す凡てに向て普及せしめ得べきものにして萬一稻作増收額の最低限たる保証額に達せざる場合は郡は之が賠償の責に任ずるものなり今擔當者並に保証額を掲ぐれば左の如し(参考資料参照)

設置町村	擔當者	保証額 (稻作 増收最 低額)	其土地 從來ノ 反當收 量	増加量	増加歩合
生雲村	磯川勘市	三、二〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	六割二分
地福村	藏田作一	三、六〇〇	二、四〇〇	一、二〇〇	六割六分
嘉年村	中野熊一	三、〇〇〇	一、八〇〇	一、二〇〇	六割
福賀村	中原善吉	三、二〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	六割二分
彌富村	村上卯八	三、〇〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇	六割三分
小川村	岡崎友楯	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	六割六分

宇田郷村	寅竹大治	三、五〇〇	二、二〇〇	一、三〇〇	六割二分
紫福村	金子伊三	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	六割六分
椿郷東分村	中原太八	三、四〇〇	二、六〇〇	八〇〇	七割六分
明木村	原房熊	三、〇〇〇	二、二〇〇	八〇〇	七割三分
平均		三、一五〇	二、〇七〇	一、一〇〇	六割五分

□即賣品評會成績

大正九年十月神戸市に於て本縣水産組合即賣品評會を開催したるが本郡出品の成績左の如し

出品物	審査等級	賞金	村名	氏名
二番錫	特等	五〇	奈古村	谷寅松
鱧鱒	三等	五	宇田郷村	竹本常穂
貝柱	全	五	椿郷東分村	兒玉正亮
錫	全	五	大井村	吉村伊助
全	褒賞		須佐村	内田吉助
全			田万崎村	杉山正作
全			大井村	吉屋恒之進
全			大井村	重富元助
全			須佐村	野村八太郎

◎辭令

□町村吏員異動

就任	大正九年二月九日	椿郷東分村長	南方良輔	新任
就任 <th>大正九年一月卅一日</th> <td>嘉年村助役</td> <td>水津忠太</td> <td>新任</td>	大正九年一月卅一日	嘉年村助役	水津忠太	新任
就任 <th>大正九年三月十五日</th> <td>見島村助役</td> <td>多田正一</td> <td>再任</td>	大正九年三月十五日	見島村助役	多田正一	再任
就任 <th>大正九年三月十八日</th> <td>見島村收入役</td> <td>弘長良一</td> <td>再任</td>	大正九年三月十八日	見島村收入役	弘長良一	再任

全	全	全	全	領家
宇田郷村	須佐村	中野久吉	兒玉正亮	宗吉
椿郷東分村	田中	宗吉		



生活改善同盟會成る

今回伊藤博邦公其他百有餘名の同志により、生活改善同盟會あるもの組織されたるが、同會に於て實行に努力せんとするは、左の諸項にして、之が調査機關を設け講演會、展覽會等を開催し、雜誌、圖書其他の印刷物を發行する由。

- 一、時間を正確に守ること。
- 一、訪問、紹介、依頼等は相互の迷惑にならぬ様心掛くること。
- 一、親近者に對する外停車場等の送迎を廢すること。
- 一、年玉、中元、歳暮、クリスマス、プレゼント、餞別、土産、祝儀、不祝儀等に於ける形式的の贈答を廢すること。
- 一、年賀、時候見舞等に於ける形式的の回禮及書信の往復を廢止すること。
- 一、冠婚葬祭其他の儀禮は嚴肅を旨とし、虚飾に流れざること。
- 一、宴會の弊習を改むること。
- 一、酒杯の献酬を廢止すること。
- 一、節酒。
- 一、節煙。
- 一、衛生上他人の迷惑となる行爲を慎むこと。
- 一、迷信に基ける弊害を排すること。
- 一、雇傭人に對しては人格を重んじ、親切を旨とすること。
- 一、冗費を省き、收入の幾分を必ず貯蓄すること。
- 一、水道、電燈、瓦斯等は總て公共的物資の浪費を避くること。
- 一、群集の場所に於ては禮儀秩序を重んじ、弱者を扶くるやうに心掛くること。

參 考 資 料



ABUGUNPO

(1)

學校名	男	女	計	本 順	月	前 位
明木	九八、五八	九九、三四	九八、九五	一	一月	三
宇瀨	九八、九九	九八、七二	九八、八六	二	二月	七
高川	九八、五〇	九八、二三	九八、三七	三	三月	二
上小	九八、八四	九七、三三	九八、〇〇	四	四月	二
長高	九七、七六	九六、九〇	九七、九三	五	五月	四
椿西	九七、四三	九七、八四	九七、八〇	六	六月	五
越濱	九七、四三	九八、〇五	九七、七四	七	七月	四
半田	九八、九三	九五、八八	九七、六一	八	八月	八
川上	九七、四一	九七、七二	九七、五六	九	九月	六
龜山	九七、五〇	九七、一二	九七、三三	〇	十月	九
木間	九六、一七	九七、三二	九六、八五	一	十一月	〇
福生	九七、〇七	九六、三〇	九六、七〇	二	十二月	〇
篠野	九六、六二	九六、七五	九六、六八	三	一月	三
立島	九七、一九	九五、八〇	九六、五八	四	二月	一
大並	九八、二二	九四、九五	九六、四六	五	三月	一
佐川	九六、二二	九六、三〇	九六、二六	六	四月	六
小川	九六、九九	九五、四三	九六、二四	七	五月	六
鈴野	九七、三九	九四、八〇	九六、二〇	八	六月	八

一、町村立小學校尋常科兒童出席步合表

目次

- 一、町村立小學校尋常科兒童出席步合表
- 二、同 高等科兒童出席步合表
- 三、稻作模範地現況調查及設計書
- 四、自大正八年一月至同年十二月家畜市場成績表



ABUGUNPO

學校名	男	女	計	本順	月	前	位
宇田年	九九、三二	九九、三〇	九九、三一	一	一		二
嘉木	九八、七〇	一〇〇、〇〇	九九、〇五	二	一		一
明富	九八、二九	九九、六八	九八、九〇	三	三		〇
彌富	九八、九六	九七、八八	九八、六六	四	四		三
佐並	九七、七七	九九、五九	九八、二九	五	五		四
奈古	九七、七四	九七、三五	九七、五八	六	六		九
紫福	九六、二一	九九、五五	九七、二四	七	七		四
明倫	九八、一三	九六、二五	九七、一三	八	八		一
育英	九六、七五	九七、五五	九七、〇五	九	九		一
福田	九七、三四	九五、五八	九六、八四	一〇	一〇		六
小川	九六、四九	九六、三二	九六、四二	一一	一一		四

生野戸	白呂	高侯	本月郡平均	前月郡平均
八九、二二	八六、一〇	八一、一五	九五、二九	九六、七二
八六、二六	八九、一二	八四、五二	九三、七一	九五、七七
八七、九四	八四、一二	七七、七二	九三、七一	九五、七七
八七、五七	八四、五二	七七、七二	九三、七一	九五、七七
八七、五七	八四、一二	八四、五二	九三、七一	九五、七七
八七、五七	八四、一二	八四、五二	九三、七一	九五、七七
八七、五七	八四、一二	八四、五二	九三、七一	九五、七七
八七、五七	八四、一二	八四、五二	九三、七一	九五、七七
八七、五七	八四、一二	八四、五二	九三、七一	九五、七七
八七、五七	八四、一二	八四、五二	九三、七一	九五、七七

一、町村立小學校高等科兒童出席歩合表

ABUGUNPO

學校名	男	女	計	本順	月	前	位
下小川	九六、五一	九五、七八	九六、一五	一九	一九		二
大井	九五、七三	九五、八一	九五、七七	二〇	二〇		二
篠目	九五、二八	九六、一六	九五、七〇	二一	二一		二
多磨	九六、〇二	九五、一五	九五、六一	二二	二二		二
紫福	九五、六四	九四、五一	九五、四六	二三	二三		二
相坂	九五、九三	九四、〇八	九五、〇二	二四	二四		一
三島	九六、五八	九二、〇二	九四、四六	二五	二五		一
明倫	九五、〇六	九三、七二	九四、三九	二六	二六		一
育英	九四、六一	九三、六六	九四、一六	二七	二七		二
椿東	九四、三九	九四、四九	九三、九六	二八	二八		二
嘉年	九五、〇九	九二、四四	九三、八〇	二九	二九		三
奈古	九三、一〇	九三、四五	九三、二七	三〇	三〇		一
地福	九三、五八	九二、二〇	九二、九一	三一	三一		三
見島	九三、七一	九一、七五	九二、六八	三二	三二		二
福田	九二、一二	九二、三九	九二、二五	三三	三三		二
藏喜	九三、三〇	九一、〇〇	九二、二〇	三四	三四		三
彌富	九二、四一	九一、二三	九一、八八	三五	三五		三
德佐	九二、〇三	八八、八〇	九一、七二	三六	三六		三
吉部	九三、〇四	九〇、九二	九一、五七	三七	三七		三



三、稻作模範地現況調査及設計書												
株間及一坪數	一株ノ本數	插秧ノ時期	耕鋤ノ深サ	種苗代一坪播量	苗代肥料(一畝當)	播種期	撰種及浸種	品種名	現況	保證額	土性	模範地位置面積
八寸五十六株	六本	六月上旬	五寸	三合	木糞 二〇〇 人糞 一〇〇 灰 二〇〇 (十二月施肥)	四月二十日乃至二十五日	鹽水選(一、一四)池ニ七日間	中生神力	早生神力	保證額 一反當リ (九俵) 三石六斗	粘質壤土 排水良好 耕土五寸 底礫質粘土 石英粗面岩	阿武郡地福村字市 二町一反二畝
東西一尺 南北四寸 九十株	二本植(六本)	全上	五寸	二合	硫酸アンモニア、二七〇 過磷酸石灰、〇七五 人糞、〇九〇 人糞尿少量穗肥ニ用フ	全上	全上	早生神力	早生神力			阿武郡地福村大字市

前月郡平均	本月郡平均	見島	白水	高保	吉部	徳佐	篠生	川上	生雲	三見	多磨	福川	大地井	椿島	椿東	椿西	學校名
九六、五二	九五、〇三	八〇、四八	八六、〇五	八八、九一	九一、九三	九一、七七	九五、四五	九三、五六	九三、九一	九三、七〇	九六、三二	九五、六五	九三、四五	九七、八八	九六、三九	九七、五五	男
九七、四七	九五、二一	一〇〇、〇〇	八四、六三	八四、一四	九二、四六	九五、二二	九一、六七	九五、〇一	九五、九二	九五、六八	九〇、六六	九四、四二	九七、三二	八九、〇〇	九五、六三	九四、二四	女
九六、八六	九四、九六	八二、三八	八五、二一	八七、六四	九二、一三	九三、〇一	九三、八九	九四、〇七	九四、五七	九四、六九	九四、七五	九五、〇五	九五、三九	九六、〇三	九六、三一	九六、三四	計
		二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	本順
		二七	一八	二六	一四	二二	三	一七	二一	二三	一六	一九	二〇	二五	二二	二三	前位
		二七	一八	二六	一四	二二	三	一七	二一	二三	一六	一九	二〇	二五	二二	二三	月
		二七	一八	二六	一四	二二	三	一七	二一	二三	一六	一九	二〇	二五	二二	二三	月



株間及一坪株數	一株ノ本數	插秧ノ時期	耕鋤ノ深サ	苗代一坪播種量	苗代肥料 (一畝當)	播種期	撰種及浸種	品種名	現況		保證額	土性	模範地位置面積	經營者
									現況	設計				
七寸 七十二株	六 本	六 月 上 旬	四 寸	六 合	人糞尿 三十六貫	四 月 中 旬	唐箕選 二十日間	中 生 神 力	神 力 龜 治	三 石 二 斗	砂質壤土 排水良好 耕土四寸 底礫質粘土 古生層	阿武郡生雲村大字生雲市	磯川勤 市 擔當者氏名	
東西一尺 南北四寸 九十株	二 本 (六本)	六 月 上 旬	四 寸	二 合	人糞尿 二十七貫 過磷酸石灰 九百匁 硫酸アンモニヤ 七百五十匁	四 月 中 旬	鹽水選比重一、一四 七日間	神 力 龜 治				阿武郡生雲村大字生雲市	阿武郡生雲村大字生雲市	

四、稻作模範地現況調査及設計書

考 備	料 肥 當 步 反 一 田 本									病虫害其他	除草方法及回数
	計	人糞尿	紫雲英	山草(干)	堆肥	肥料名	肥料名	肥料名	肥料名		
苗代ニテ移植四五日前人糞尿一畝ニ付十貫ヲ用フ 穗肥トシテ出穂前入糞尿五十貫ヲ施用ス		五	一五〇	四〇	一五〇					稻熱病 泥負虫	手 取 四 回 自九月下旬 至十月下旬 二石四斗
	計									三 成 分	十 月 中 旬
	石 灰	木 灰	過磷酸石灰	大豆粕	骨 粉	干燥醬油粕	堆 肥	肥料名	肥料名	肥料名	稻熱病ノ豫防 泥負虫ノ驅除
	三〇	一五	四	一三	四	二〇	三〇〇	總施用原肥追肥	總施用原肥追肥	總施用原肥追肥	一回雁爪打 二回手取 三回田打車 四回
	草一番	全	全	草七二番	四	二〇	三〇〇	總施用原肥追肥	總施用原肥追肥	總施用原肥追肥	
	三〇	一五	四	六	一四〇	八六	一七〇	三 成 分	三 成 分	三 成 分	
	九八	一六五	二、三六九	一九五	九二五	〇七〇	五四〇	三 成 分	三 成 分	三 成 分	







考 備	料 肥 當 步 反 一 田 本										病 虫 害 其 他	收 穫 期 及 反 當 收 量	除 草 方 法 回 數					
	計	木 灰	紫 雲 英	山 草 (干)	山 草 (生)	堆 肥	肥 料 名	總 施 價 原 肥 追 肥 三 成 分						全 上 ノ 驅 除 豫 防	十 月 下 旬	一 回 雁 爪 打 二 回 手 取 三 回 右 市 車 四 回		
								用 量	格 施 原 肥 追 肥 三 成 分	施 用 量							施 用 量	時 期 施 用 量
一、苗代ニテ移植四五日前人糞尿一畝ニ付十貫ヲ用フ 一、穗肥トシテ出穂前人糞尿五十貫ヲ施用ス 一、本田ハ肥持良ク實入良ク寧ロ出來立遅ク往々滯水ノ恐アリ	計																	
	計	石 灰	藁 灰	過 磷 酸 石 灰	大 豆 粕	骨 粉	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥	堆 肥
		三〇	一五	四	一三	四	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
			七全	四	六七上	四												
		三〇	一五		七													
					八四													
					一四五													
					六四〇													
					三三五													
					六七五													
					九二													
					三、六五二、三六九													

五、稻作模範地現況調査及設計書

株間及一坪數	一株ノ本數	插秧ノ時期	耕鋤ノ深サ	苗代一坪播種量	苗代肥料(一畝當)	播種期	撰種及浸種	品 種 名	現 況	保 證 額	土 性	模範地位置面積	經 營 者	設 計	
														神 力	龜 治
七寸五分	六	六 月 中 旬	五 寸	三 合	人糞 二十貫 灰 五貫 堆肥 二十貫	五月二三日	唐箕選一週間(池)	晚 生 神 力	現 況	三 石	砂質壤土 耕土五寸 底礫質粘土	阿武郡彌富村字上田中	村 上 卯 八	擔 當 者 氏 名	阿武郡彌富村字上田中
東西一尺	二本(六本)	六 月 中 旬	五 寸	二 合	油粕 一貫五百匁 灰 六貫 人糞 三十貫 過磷酸石灰 六十匁	五月一日	鹽水選(比重二、二四) 七日間	神 力 × 龜 治	設 計		石英粗面岩	阿武郡彌富村字上田中	一 反		







株間及一坪數	一株ノ本數	插秧ノ時期	耕鋤ノ深サ	種苗代一坪播量	苗代肥料(一畝當)	播種期	撰種及浸種	品種名	現況	保證額	土性	模範地位置面積	經營者	稻作模範地現況調查及設計書	
														擔當者氏名	阿武郡宇田鄉村字郷
七寸五分	四本	六月中旬	四寸	七合	野人糞尿 草四十二貫	五月上旬	唐箕選	雄町	三石五斗	壤質砂土 排水良好	阿武郡宇田鄉村字郷	擔當者氏名	阿武郡宇田鄉村字郷	雄町	現況
七寸五分	六十四株	六月中旬	四寸	七合	野人糞尿 草四十二貫	五月上旬	唐箕選	雄町	三石五斗	壤質砂土 排水良好	阿武郡宇田鄉村字郷	擔當者氏名	阿武郡宇田鄉村字郷	雄町	現況
東西一尺	二本(六本)	六月中旬	四寸	二合	藁油灰 粕一貫五百匁 人糞尿 過磷酸石灰 六三十匁	五月一日	鹽水選(比重一、二四)	神力	龜治	耕土四寸 底礫質砂土 石英粗面岩	二町一反一畝	阿武郡宇田鄉村字郷	阿武郡宇田鄉村字郷	神力	設計
南北五寸	七十二株	六月中旬	四寸	二合	藁油灰 粕一貫五百匁 人糞尿 過磷酸石灰 六三十匁	五月一日	鹽水選(比重一、二四)	神力	龜治	耕土四寸 底礫質砂土 石英粗面岩	二町一反一畝	阿武郡宇田鄉村字郷	阿武郡宇田鄉村字郷	神力	設計

備考	計	料肥當歩反一田本										山草(干)	堆肥	肥料名	總施價原肥追肥三成分	肥料名	總施價原肥追肥三成分	除草方法回数	收穫期及反當收量	病虫害其他
		計	石	藁灰	過磷酸石灰	大豆粕	骨粉	干燥醬油粕	堆肥	肥料名	總施價原肥追肥三成分									
一、苗代移植四五ヶ所一畝ニ付人糞尿十貫ヲ施ス 一、穗肥トシテ出穂前人糞尿五十貫ヲ用フ	計	二、三五	三〇	一五	四	一三	四	二〇	三〇	三〇	一〇〇	一五〇	肥料名	總施價原肥追肥三成分	肥料名	總施價原肥追肥三成分	四回	十一月	稻熱病	
	計	九八	七上	六下	六下	六七上	四	二〇	一七〇	一四〇	八二六	一七〇	堆肥	總施價原肥追肥三成分	肥料名	總施價原肥追肥三成分	一回	十一月	稻熱病	
	計	二、六五二、三六九	三〇	一五	四	一三	四	二〇	三〇	三〇	一〇〇	一五〇	肥料名	總施價原肥追肥三成分	肥料名	總施價原肥追肥三成分	二回	十一月	稻熱病	
	計	二、六五二、三六九	七上	六下	六下	六七上	四	二〇	三〇	三〇	一〇〇	一五〇	堆肥	總施價原肥追肥三成分	肥料名	總施價原肥追肥三成分	一回	十一月	稻熱病	



考 備	料 肥 當 步 反 一 出 本	堆 肥	山 草 (干)	山 草 (生)	紫 雲 英	人 糞 尿	木 灰	計	病 虫 害 其 他	除 草 方 法	回 數	回 數	回 數	回 數			
										稻 熱 病	二 化 螟 虫	十 月 下 旬	二 石 二 斗	一 回 雁 爪 打	二 回 手 取	三 回 田 打 車	四 回 五 回
										總 施 價 原 肥 追 肥 三 成 分	肥 料 名	用 量 格 施 用 量 時 期 施 用 量 窒 素 磷 酸 加 里	用 量 格 施 用 量 時 期 施 用 量 窒 素 磷 酸 加 里	用 量 格 施 用 量 時 期 施 用 量 窒 素 磷 酸 加 里	用 量 格 施 用 量 時 期 施 用 量 窒 素 磷 酸 加 里		
一、苗代ニテ移植四五日前一畝ニ付十貫ノ人糞尿ヲ施ス 二、穗肥トシテ出穂前入糞尿八十貫ヲ施ス								五九、〇六五	稻熱病 二化螟虫	一回 雁爪打	二回 手取	三回 田打車	四回 五回				
	計	堆 肥	人 糞 尿	干 燥 燒 耐 粕	大 豆 粕	過 磷 酸 石 灰	石 灰	三、〇五〇		肥料名	總施價原肥追肥三成分	總施價原肥追肥三成分	總施價原肥追肥三成分	總施價原肥追肥三成分			
		一四〇	一〇〇	一六	一四	一〇	三〇			堆 肥	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一、〇〇〇			
			五〇七	五〇七	七六	七上	六下			人 糞 尿	五〇七	五〇七	五〇七	五〇七			
			五〇	八八〇	七二〇	七	三			堆 肥	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇			
			一八〇	七五	二〇〇	二、六二				堆 肥	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇			
			四四〇	四六四	二六〇					堆 肥	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇			
			一、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇					堆 肥	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇			
			三、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇					堆 肥	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇			
			三、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇					堆 肥	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇			
			三、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇					堆 肥	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇			
			三、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇					堆 肥	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇			
			三、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇					堆 肥	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇			

株 間 及 一 坪 數	一 株 ノ 本 數	插 秧 ノ 時 期	耕 鋤 ノ 深 サ	苗 代 一 坪 播 種 量	苗 代 肥 料 (一畝當)	播 種 期	撰 種 及 浸 種	品 種 名	現 況	保 證 額	土 性	模 範 地 位 置	經 營 者	稻 作 模 範 地 現 況 調 查 及 設 計 書	
														設	計
														阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀
七寸五分	六	六 月 一 日	五 寸	五	油 粕 八 百 匁 人 糞 尿 七 十 貫	四 月 十 日 一 十 五 日	鹽 水 選 一 週 間	新 白 玉	三 石 二 斗	火 山 灰 土 排 水 稍 々 良 耕 土 五 寸 底 表 土 同 樣 玄 武 岩	阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	中 原 善 吉 擔 當 者 氏 名	一	反	
六十四株	六 本	六 月 一 日	五 寸	二	人 糞 尿 二 十 七 貫 葉 灰 七 貫 五 百 匁 過 磷 酸 石 灰 九 百 匁	四 月 十 三 日	鹽 水 選 比 重 一、一 四 七 日 間	筑 摩 神 力			阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	一	反	
東西一尺	二 本 (六 本)	六 月 一 日	五 寸	二	人 糞 尿 二 十 七 貫 葉 灰 七 貫 五 百 匁 過 磷 酸 石 灰 九 百 匁	四 月 十 三 日	鹽 水 選 比 重 一、一 四 七 日 間	筑 摩 神 力			阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	一	反	
南北四寸	二 本 (六 本)	六 月 一 日	五 寸	二	人 糞 尿 二 十 七 貫 葉 灰 七 貫 五 百 匁 過 磷 酸 石 灰 九 百 匁	四 月 十 三 日	鹽 水 選 比 重 一、一 四 七 日 間	筑 摩 神 力			阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	一	反	
九十株	二 本 (六 本)	六 月 一 日	五 寸	二	人 糞 尿 二 十 七 貫 葉 灰 七 貫 五 百 匁 過 磷 酸 石 灰 九 百 匁	四 月 十 三 日	鹽 水 選 比 重 一、一 四 七 日 間	筑 摩 神 力			阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	阿 武 郡 福 賀 村 字 宇 生 賀	一	反	



稻作模範地現況調査及設計書										
經營者	金子俊介			擔當者氏名	阿武郡紫福村			模範地位置	阿武郡紫福村字	
土性	砂質壤土			保證額	三石(八年二石二斗收穫)			現況	設計	
品種名	神力			播種期	四月下旬			撰種及浸種	鹽水選池浸シ	
苗代肥料(二畝當)	人糞尿一〇貫 堆肥一五貫 木灰三〇貫			種苗代一坪播量	五合			耕鋤ノ深サ	五寸五分	
插秧ノ時期	六月中旬			一株ノ本數	五本			株間及一坪數	七寸五分ニ八寸	
除草方法回數	一回雁爪打 二回手取 三回日打車 四回手取			收穫期及反當收量	十月上旬			病虫害其他	二化螟虫	
肥料名	人糞尿一〇貫 堆肥一五貫 木灰三〇貫			總施價原肥追肥三成分	四〇〇			肥料名	過磷酸石灰一貫 硫酸三〇〇	
堆肥	一五〇			總施價原肥追肥三成分	四〇〇			堆肥	四〇〇	
人造肥料	一五			總施價原肥追肥三成分	四〇〇			堆肥	四〇〇	
計	三、二七〇			總施價原肥追肥三成分	二、六〇五			堆肥	二、五〇〇	

經營者	金子俊介			擔當者氏名	阿武郡紫福村			模範地位置	阿武郡紫福村字	
土性	砂質壤土			保證額	三石(八年二石二斗收穫)			現況	設計	
品種名	神力			播種期	四月下旬			撰種及浸種	鹽水選池浸シ	
苗代肥料(二畝當)	人糞尿一〇貫 堆肥一五貫 木灰三〇貫			種苗代一坪播量	五合			耕鋤ノ深サ	五寸五分	
插秧ノ時期	六月中旬			一株ノ本數	五本			株間及一坪數	七寸五分ニ八寸	
除草方法回數	一回雁爪打 二回手取 三回日打車 四回手取			收穫期及反當收量	十月上旬			病虫害其他	二化螟虫	
肥料名	人糞尿一〇貫 堆肥一五貫 木灰三〇貫			總施價原肥追肥三成分	四〇〇			肥料名	過磷酸石灰一貫 硫酸三〇〇	
堆肥	一五〇			總施價原肥追肥三成分	四〇〇			堆肥	四〇〇	
人造肥料	一五			總施價原肥追肥三成分	四〇〇			堆肥	四〇〇	
計	三、二七〇			總施價原肥追肥三成分	二、六〇五			堆肥	二、五〇〇	

備考

一、出來立遅ク肥持惡ク秋入ヲ來シ實入リ惡シ

一、苗代ニテ移植四五日前一畝ニ付人糞尿十貫ヲ施ス

一、穗肥トシテ出穂前人糞尿五十貫ヲ用フ



株間及一坪數	一株ノ本數	插秧ノ時期	耕鋤ノ深サ	苗代一坪播量	苗代肥料(一畝當)	播種期	撰種及浸種	品種名	保證額	土性	模範地位置面積	經營者	稻作模範地現況調查及設計書	
													現況	設計
八寸五十六株	二	六月上旬	六寸	三合	人糞尿六貫(稀) 紫雲英(生)五貫 木灰二貫 堆肥四貫 人糞尿ハ半量植付前	四月下旬	鹽水選 七日間 浸水	早生神力	三石一斗 (八年 二石四斗收穫)	壤土	阿武郡明木村	原房熊	擔當者氏名	阿武郡明木村
東西九寸南北五寸七十九株	二本乃至三本	全上	六寸	二合	人糞尿一五貫 藁灰七貫 堆肥二〇貫 硫酸アンモニヤ三百目	全上	全上	全上		一	反			

考備	計	肥料當歩反				一石灰	出紫雲英(生)	本肥料名	病虫害其他	當收穫量	除草方法
		肥料	當	歩	反						
	五五					三	五〇	總施價原肥追肥三成分		十月下旬 二石	三回 第一、二、三回 除草器使用 手取
	計	石灰	木灰	硫曹五號	鰯ノ粕	堆肥	肥料名	總施價原肥追肥三成分		全上	五回 第一、二、三、四、五回 除草器使用 手取
	二六〇	三〇	一〇	一〇	一〇	三〇	用量施價原肥追肥				
	二五五	三〇	一〇	五	一〇	二〇〇	時期施用量窒素磷酸加里				
	五二			五	一	一	追肥				
	九〇〇			五〇〇	九〇〇	五〇〇	三成分				
	二五〇			二五〇	四〇〇	七八〇	酸加里				
	一五〇			一〇〇	〇五〇	八〇〇					



稻作模範地現況調査及設計書										
經營者	中原 太 八			擔當者氏名	阿武郡椿郷東分村			模範地位置	阿武郡椿郷東分村	
土性	砂質壤土			保證額	三石四斗 (八年 二石八斗收量)			現況	計	
品種名	神力			播種期	四月下旬			撰種及浸種	鹽水選 七日間 川浸	
苗代肥料 (一畝當)	人糞尿 三十貫 木灰 五貫			苗代一坪播種量	四 合			耕鋤ノ深サ	四 寸	
插秧ノ時期	六 月 中 旬			一株ノ本數	三本乃至四本			株間及一坪數	九 寸	
除草方法回数	一回 除草器使用 三四、五回 手取り			收獲期及反	十月下旬			病虫害其他	螟虫ノ被害ニ注意ヲ要ス	
肥料名	人糞尿 三〇貫 過磷酸石灰 一貫 硫酸アンモニヤ 三〇〇匁			總施價原	二 合 五 勺			肥料名	紫雲英 跡地	
追肥	硫酸アンモニヤ 三〇〇匁			追肥	二 寸			肥料名	堆肥	
室素	一 貫			室素	一 貫			肥料名	綿實粕	
磷	一 貫			磷	一 貫			肥料名	柴草	
酸	一 貫			酸	一 貫			肥料名	過磷酸石灰	
加里	一 貫			加里	一 貫			肥料名	木灰	
分	一 貫			分	一 貫			肥料名	木灰	
計	三三〇			計	三三〇			計	三三〇	

植付後ハ可成淺水トシ土用中數回落水シ田面ヲ乾カス										
肥料名	堆肥			總施價原	一〇〇			肥料名	大豆粕	
追肥	二番 除草			追肥	七 七			肥料名	過磷酸石灰	
室素	七 七			室素	七 七			肥料名	木灰	
磷	七 七			磷	七 七			肥料名	木灰	
酸	七 七			酸	七 七			肥料名	木灰	
加里	七 七			加里	七 七			肥料名	木灰	
分	七 七			分	七 七			肥料名	木灰	
計	三三〇			計	三三〇			計	三三〇	







種類	同		上		其二		馬
	入場頭數	賣買頭數	價格	頭高	最低價	平均價格	
雜種	一三三	一九三	四六一、〇〇	五五〇、〇〇	一〇五、〇〇	一八二、一六	九四
移種	二二七	七二五	四五、〇〇	一九〇、〇〇	一〇、〇〇	七五、七一	一二四
計	三五〇	九一八	九一二、〇〇	五五〇、〇〇	一〇、〇〇	九七、九三	二二八
家畜市場名	同		上		其三		交換頭數
入場頭數	賣買頭數	價格	頭高	最低價	平均價格		
萩定期家畜市場株式會社	八四四	五二四	七、一九七、〇〇	三五〇、〇〇	一五、〇〇	一四〇、四六	三三〇
佐々並定期家畜市場	四七三	三二六	三、七八三、〇〇	四二〇、〇〇	一八、〇〇	一六三、〇八	一三三
德佐定期家畜市場	四六八	一六六	二、六九四、〇〇	五五〇、〇〇	一〇、〇〇	一三〇、六六	二二七
吉部定期家畜市場	五〇五	一五八	二、〇五二、〇〇	二六五、〇〇	二五、〇〇	一〇一、一一	二七四
小川定期家畜市場	二〇六	一六三	一、〇〇二、〇〇	四八六、〇〇	七五、〇〇	一九〇、四一	—
臨時家畜市場	一、七二六	四三九	二、七五三、〇〇	二六五、〇〇	七、〇〇	六〇、九四	四
計	三、二二三	一、六六八	一、九六、八八一、〇〇	五五〇、〇〇	七、〇〇	一、一八、〇三	九五七

阿武郡報第四十三號

大正九年三月廿五日發行

◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可

◎每月一回二十五日發行

一部(代價金拾錢)